

令和4年度 山口県地域福祉推進セミナー（第2回） ～お互いを気にかけて寄り添う支え合いのまちづくり～ 開催要項

1 趣 旨

近年、経済的困窮や社会的孤立などの生活に困窮する者が増えています。厚生労働省が実施している「国民生活基礎調査」の結果では、経済的困窮を示す貧困率の値が、昭和60年では12.0%でしたが平成30年では15.7%となっており、長期的には上昇傾向にあります。

また、1999年代以降にバブル経済崩壊や長期的な景気低迷により雇用の不安定化が進み、全就業者に占める非正規雇用労働者の割合は、近年3割台後半を推移しています。

こうした経済的困窮や雇用の不安定化は社会関係の不安定化をもたらし、様々な世代で社会的孤立が進んでいると言われていています。

そのような中で、国においては地域共生社会の実現に向けた改革を進めており、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて繋がることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指しています。

そのためには、サービスや制度の活用だけでなく、住民同士が気にかけて、助け合うことが出来る地域づくり、社会的に孤立し、生きづらさを抱えている人に寄り添い、支えるための仕組みづくりが必要となります。

そこで、今回のセミナーでは、社会的に孤立した人、生きづらさを抱えている人に寄り添う支援とはどのような支援なのかを学び、地域の住民同士が気にかけて支え合うことができる地域づくりについて考える機会として開催します。

2 主 催

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

3 後 援

山口県、山口県民生委員児童委員協議会、山口県自治会連合会、山口県老人クラブ連合会、山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会、やまぐち県民活動支援センター、山口県共同募金会（順不同/法人格省略）

4 開催方法

ZOOMによるオンライン形式

5 日 時

令和5年3月16日（木） 午後1時から午後4時まで

6 参加費

無料

7 対 象

市町社会福祉協議会役職員、ボランティアコーディネーター、地区社会福祉協議会役職員、民生委員・児童委員、主任児童委員、福祉員、ボランティア、老人クラブ会員、自治会・町内会関係者、NPO、施設役職員、スクールソーシャルワーカー、県市町行政職員、学生、その他地域福祉活動に興味のある方

8 内容

プログラムの詳細については、別添「研修会プログラム」に記載しています。

12:30	受付開始
13:00	開 会
13:10～14:40 [90分]	基調講演 「困ったときに『助けて』と言える地域へ」 ～地域におけるお互いを気にかけて関係づくり～ 【講師】 明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 新保美香氏
14:40～14:50 [10分]	休 憩
14:50～15:50 [60分]	実践報告 「地域におけるお互いを気にかけて支え合うつながりづくり」 ～困ったときは「助けて」と言えるつながりづくり～ 【報告者】 ・特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク 代表 児玉頼幸氏 ・生活相談サポートセンターうべ (社会福祉法人 宇部市社会福祉協議会) 主任相談支援員 古富真氏 【コーディネーター】 明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 新保美香氏
16:00	閉 会

9 参加申込方法

令和5年3月1日(水)までに、下記申込フォームからお申込みください。

お申込みいただいた方には、後日メールにて受講及び資料ダウンロードに必要なURLをお送りします。

[申込フォーム (Microsoft Forms を使用しています)]

<https://forms.office.com/r/8sbc1C5QZN>

※申込フォームのURLは、HPでも御案内しています。



※記入いただいた個人情報は、研修会の運営目的のみに使用いたします。

10 申込み・問合せ先

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

地域福祉部 地域福祉班

担当：中本、和田

〒753-0072 山口市大手町9番6号

TEL (083) 924-2828 FAX (083) 924-2847

e-mail chiiki@yg-you-i-net.or.jp

ープログラムー

■基調講演 (90分)

「困ったときに『助けて』と言える地域へ」

～地域におけるお互いを気にかけて関係づくり～

◆講師

明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 新保美香氏

《目的》

近年、家族や友人、近隣の人たちと交流が無く、困った事があっても人に頼ることが出来ない、「助けて」と声を上げることが出来ずに社会的に孤立する人が増えています。また、抱える困りごとにも複雑・複合化しており、既存の制度や支援だけでは十分に対応できないケースも増加傾向にあり、地域には生きづらさを抱える人たちが多くいると思われています。

社会的に孤立する人が増える要因や、社会的に孤立した人、生きづらさを抱えている人に寄り添う支援とはどのような支援なのか、「助けて」と声を上げることができない人に寄り添いつながるために、地域住民や福祉、介護などの専門職に期待されていることはどのようなことなのか、地域におけるお互いを気にかけて関係づくりについてご講演いただきます。

《講師プロフィール》

明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 新保美香(しんぼみか)氏

◆略歴

明治学院大学大学院を修了後、高齢者ケアセンター、福祉事務所ケースワーカー(高齢者担当・生活保護担当)を経て、現職に至る。

2004年度に、国立シンガポール大学(National University of Singapore)に、特別研究員として留学する。

◆近年の研究テーマ

長く生活保護の実践活動を研究されていましたが、2015(平成27)年度に生活困窮者自立支援法が成立したことを契機に、現在は、生活保護および生活困窮者自立支援制度における自立支援と人材養成について検討されています。

◆研究実績

- 社会福祉学習双書2022『貧困に対する支援』(共編著) 全国社会福祉協議会
2022年。
- 最新社会福祉士養成講座・第4巻『貧困に対する支援』(共編著)
中央法規出版、2021年。
- 「これからの社会福祉の展望 生活保護制度の現状と今後の展望：生活保護法制定70年を迎えて」『月刊福祉』12月号、全国社会福祉協議会、2020年。
- 「新型コロナ禍における生活保護実践の意義とケースワーカーの役割」『生活と福祉』7月号、全国社会福祉協議会、2020年。
- 「生活困窮者支援におけるソーシャルワーク(1)～(4)」『ソーシャルワーク研究』45-(1)～(4)、相川書房、2019年～2020年。

■実践報告 (60分)

「地域におけるお互いを気にかけて支え合うつながりづくり」
～困ったときは「助けて」と言えるつながりづくり～

◆実践報告者

- ・ 特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク 代表 児玉頼幸 氏
- ・ 生活相談サポートセンターうべ (社会福祉法人宇部市社会福祉協議会)
主任相談支援員 古富 真 氏

◆コーディネーター

明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 新保美香 氏

《目的》

私たちの地域には様々な事情で「生きづらさ」を抱えている人がいます。また、その抱えている生きづらさや困りごとについて、人に「助けて」と言えない人も少なくありません。そういった人たちを地域全体で支えるために、地域住民である自分達に期待されること、地域住民同士が気にかけて、支え合うつながりづくりについて考えていきます。

《実践報告》

「こどもの食支援によるつながりづくり」

報告者：特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク

代表 児玉頼幸 氏

全国でこども食堂など子ども達が安心して食事ができるよう取組が進められています。県内においても、こども食堂やフードパントリー、こども応援宅食便など、こどもや子育て家庭の支援が進められています。

こども、子育て家庭の食支援の取組をとおして、社会環境の変化に伴うこどもを取り巻く課題や、食支援を通じた支援者及び地域とのつながりづくりについてお話いただきます。

「生活困窮者の相談支援と地域とのつながり」

報告者：生活相談サポートセンターうべ (社会福祉法人 宇部市社会福祉協議会)

主任相談支援員 古富 真 氏

生活困窮者自立支援事業では、様々な困りごとを抱える方々に対し地域の関係機関・関係者と連携し支援にあたっています。そして、身近な地域住民だからこそ気付けた困りごとを支援につなぐなど、住民の方々との連携、協力が重要となります。

困りごとを抱え、孤立しがちな方への相談支援について、支援にあたっての地域住民とのつながりについてお話いただきます。